

●型式:3ウェイ3スピーカー・バスレフ型●使用ユニット:ウーファー・20cmコーン型、ミッドレンジ・2.5cmドーム型、トワイター・2cmドーム型●クロスオーバー周波数:3.5kHz、10kHz●感度:86dB/W/m●インピーダンス:8Ω●寸法/重量:W323×H635×D305mm/16.8kg●問合せ先:エムプラス コンセプト ☎045(845)7839

ハーベス Super HL5

¥418,000(ペア)

S

スピーカー

深みのある豊かな鳴りっぷり。柔らかく、心に染み渡る

傳信幸

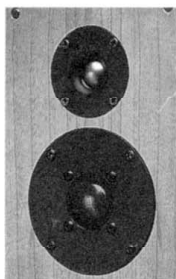


PROFILE

1977年創業のハーベス・アコースティック社は、現在ハーベス・オーディオという社名で活動している。

新作のSuperHL5は、ハーベスのベストセラー機、HL5(88年発表)の改良版になる。オリジナル機から16年を経て、現在はSACDやDVDオーディオという上位フォーマットのソフトがあるため、高域特性の改善に取り組んだ。20センチウーファーをベースにした3ウェイだが、クロスオーバー周波数をみると、構成は3ウェイというより2ウェイ+スーパートワイターである。スピーカーグリルは、金属枠をバッフルに埋め込むことで、グリルとバッフル表面とがほぼ密着して凹凸がない、単純だが巧みな仕組みだ。

英国北部にある木工専門工場に生産依頼しているというエンクロージャは、高剛性・重量級ではなく、響きを活かす昔ながらの設計である。ハーベス・オーディオ社ではこれを「スーパー・チューンド・ストラクチャー」と高らかに呼称している。(傳)



3.5kHz以上の帯域を受け持つ2.5cm口径ドーム型ミッドレンジ、10kHz以上を受け持つ2cm口径ドーム型トワイター。ハーベスではこのトワイターをスーパートワイターと位置付けており、チタン振動板の採用もあって40kHzまで再生可能という。

のトワイターをスーパートワイターと位置付けており、チタン振動板の採用もあって40kHzまで再生可能という。

今時めずらしくトロンと甘い低音が心地いい。25センチ以上のウーファーを使い、そのコーンは半透明で表面にダンピング剤が塗られた懐かしいBBC系か、と思いつながらネットを外した。しかしウーファーのコーンは黒く、口径は20センチでしかなかった。それなのに甘く深い低音。

音も懐かしいがエンクロージャのプロポーションも懐かしく、落ち着いた安定感がある。音楽を鳴らしながらエンクロージャに手のひらを当てると驚くほど振動しているのがわかるが、不思議にあくどい響きには聴こえてこない。

2本を左右に拡げ気味に置いて、内振りにし、聴き手との位置関係をほぼ正三角形にすると、音像が厚く浮かび上がる。深みのある豊かな鳴りっぷり。それが単に古めかしい不透明な音では決してないことを特記しておきたい。演奏会場の空気感がフワリと演出されるほどではないが、ミッドレンジは明瞭だ。ヴォーカルは甘すぎずに生気を失ってはならず、柔らかだががしかに心に染み渡る力を持っている。そう、このスピーカーの音の主張は決して古くさくはないのである。

お帰りハーベス。さあ、スタンドの選択に知恵を絞ろう。